

# 山猫合奏団と宮沢賢治のコラボレーション

Yamaneko Ensemble & Kenji Miyazawa

「朗読」とは全く違う **名状し難い新たなジャンル**

## 山猫合奏団

1981年、ピアニストの白石准が、俳優楠定憲との共演ために「どんぐりと山猫」を作曲、以来「どんぐりと山猫」は、白石准のコンサートで度々演奏されてきました。語り手が二人であったり、時には白石がピアノを弾きながら自分で語ったりと、その形も様々で、タレントのピーコ氏が語り、サイガバレエ団が踊るといった実験的な公演もなされました。

1996年、初めてピアノだけではなく、弦楽器や管楽器も加えたバージョンを高山正樹の語りで公演、その時集まった著名なプレイヤーたちが、その一時的な集団を、自ら「山猫合奏団」と呼びました。以後、そうした編成で「どんぐりと山猫」が演奏される度、「山猫合奏団」は、その都度再結成されてきたのです。

2005年、チェロ奏者大島純の依頼によって、白石准は「セロ弾きのゴーシュ」を作曲しました。常にチェロが参加する「セロ弾きのゴーシュ」は、つまり常に「合奏」であり、この時から「山猫合奏団」は、恒常的な集団となりました。

## ジャンル

自分たちの作品を、聞いたことのない方々に説明しようとするとき、いつも大変苦慮します。まず「朗読」というイメージを払拭しなければならないのですが、「朗読ではありません」という言葉を使ったその瞬間から、「朗読」というジャンルに絡みとられていく違和感を感じるのです。つまり、それほどに「朗読」というイメージから遠い表現だということなのですが、といて私たちが、「演劇」的なジャンルを拒否してきたというわけでもありません。大学で演劇を専攻するという奇怪な経歴を持つピアニスト白石准は、むしろ演劇を専門とする語り手たち以上に、演劇的な世界を志向してきたといえます。但し、それはあくまでも、白石自身の音楽を100%実現することが、その条件であったといえます。振り返ってみれば、山猫合奏団は結果的にクラシックの土俵で多く活動してきたし、そして、そこが一番じっくりする場所でもあったということが、それを物語っています。

## 宮沢賢治

勿論、どんなコンサート会場でも、宮沢賢治の言葉が、その圧倒的な存在感を失うことなどあり得ません。だが、若き日の怖いもの知らずの白石准は、宮沢賢治のテキストを、自らの音楽を実現するための素材でしかないと言い切りました。その傍若無人さが、単なる物語を補足する背景としての音楽ではなく、賢治の言葉と同等の重量を持って対峙する(音)を生んだのです。白石准の「どんぐりと山猫」は、BGMとは全く違うものです。

## iTunes Store にデジタル配信中！

ともかく、一度聞いてみてくださいとしかいいようがないのです。「どんぐりと山猫」と「セロ弾きのゴーシュ」のそれぞれの公開録音が、“iTunes store”にてデジタル配信され反響を呼んでいます。そこで試聴ができますので、是非一度アクセスしてみてください。購入してくださった方の感想を読むこともできます。それもどうか参考にしてみてください。

iTunes storeへは山猫合奏団ホームページのリンクをご利用下さい。 <http://lince.jp/>

08年度には「注文の多い料理店」もレパートリーに加わる予定です。五十の齢を過ぎた白石准は、今、宮沢賢治をどう考えているのでしょうか。少なくとも若き日の彼に比べれば、賢治の存在の大きさをずっと実感しているのに違いはないのですが、しかしそれは、世に氾濫するステレオタイプの賢治評とは全く違ったものに違いありません。なぜなら、白石の賢治を見つめる眼差しは、誰のものでもない自らの音楽を通じて賢治と対決し続けてきた結果であって、その内的世界は、他者には決して理解できないもののように思われるのです。

言葉は、名状し難きものに名前を付ける道具です。しかし弊害は、言葉が生み出す既成概念です。皆様も、そんな既成概念に惑わされる事がなければ、我々の作品群を、快く受け入れてくださるものと確信しています。素直な子供たちなら尚更です。是非皆様自身の新鮮な言葉で、我々に新しいジャンルを与えてください。

## 【 基本構成 】

1部 : コンサート

2部を構成する楽器によるコンサート。時間等のご要望にお答えします。

休憩 : 10分乃至15分程度

2部 : 「どんぐりと山猫」「ゼロ弾きのゴーシュ」「注文の多い料理店」の中からお選びください。

なお、フランシス・プーランク作曲の「子象ババールの物語」などを組み合わせることも可能です。

さらには、2部の中から2つを一挙演奏も不可能なことではありません。

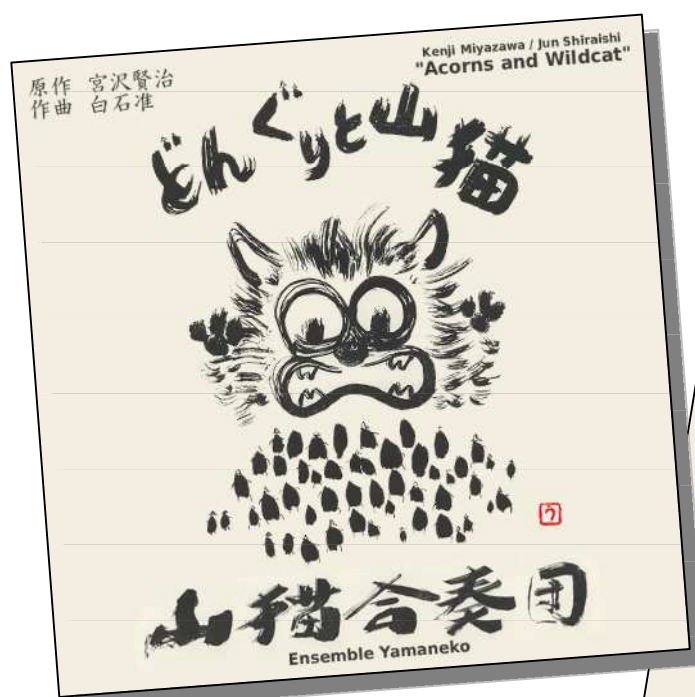
スケジュールの都合上、演奏者の変更がある場合がございます。

## 2部の作品紹介

タイトル:	“どんぐりと山猫”
原作:	宮沢 賢治
作曲:	白石 准
基本編成:	ピアノ:1人 語り:2人 *ご予算等に合わせて、語り1人のバージョンもあります。 *フルート・ヴァイオリン・トランペット・クラリネット(or ファゴット)チェロが加わったフルバージョンは、前半のコンサートを含め、音楽的に大変濃厚なステージとなります。是非ご検討ください。
内容:	一郎はある日山猫から、「裁判」の招待状が届く。喜んで出かける一郎は、道中さまざまな登場人物と言葉を交わします。物語りは、まず、登場人物の紹介から始まるのですが、紹介の際にピアノで弾かれる登場人物一人ひとりに与えられたごく短いモチーフが、この作品が単なる朗読ではないことを予感させます。 1981年2月の初演以来、全国各地で60回以上公演を重ねてきました。その間に数々の試行錯誤が行われ、大変完成度の高い音楽となっています。
演奏時間:	40分

タイトル:	“ゼロ弾きのゴーシュ”
原作:	宮沢 賢治
作曲:	白石 准
基本編成:	ピアノ:1人 チェロ:1人 語り:2人 *ご予算等に合わせて、語り1人のバージョンもありますが、本作品の醍醐味を味わっていただくためには、やはり語り2人バージョンが絶対お勧めです。
内容:	宮沢賢治は、チェロが大好きで、自ら演奏もしました。しかしその腕前は決して褒められたものではなかったようです。「ゴーシュ」という言葉には「左利き」という意味があります。尋常小学校で左利きが矯正された時代、賢治は、どんな思いで自作の童話の主人公に「ゴーシュ」と名付けたのでしょうか。下手くそなチェリストであるゴーシュは、動物たちとの出会いを通して、最後には名演奏家となるのですが、白石准は、ゴーシュの奏でる感動的な音楽そのものを創造したのです。「iTunes」での感想のひとつをご紹介します。 「賢治だってゴーシュのためにこんな曲を作ってみたかったのではないのでしょうか。」
演奏時間:	50分 *この作品は小さな子供にも楽しんで頂けるものです。しかし保育園では少し長いかも。そんな場合に備えてちょっと短めのバージョンも準備しています。またちょっとした人形も作ってみました。これはメンバーの遊び心の表れです。(皆さんの想像力で十分なのですが、どうもメンバーの中にどうしてもいたずらしたいのがいるのです。ご希望なら大人向けコンサートでもお目にかけます。)

タイトル:	“注文の多い料理店”
原作:	宮沢 賢治
作曲:	白石 准
基本編成:	ピアノ:1人 歌:1人 語り:1人
内容:	「注文の多い料理店」の重要なエッセンスは歌です。二人の高慢な紳士が山の中で迷い、そこで突然目の前に現れる西洋料理店、空腹を満たすために入って見たものの、誰も迎えに出てくるわけでもなく、延々と続く廊下、行く手には次々と現れる扉、それらに書かれた店主からのメッセージ、それが二人を恐怖のどん底に追い込んで行く。白石准は、そのまだ見ぬ店主からのメッセージを歌のヴァリエーションで表しました。聴衆は、白石准のピアノの音と歌い手の肉声によって、賢治の世界に引き込まれていきます。観客は、その時改めて音楽というものが、彼岸と此岸の懸け橋であることに思い至るのです。扉に書かれた不気味なメッセージは、紳士たちの脅えた弱々しい声で読まれるべきか、あざ笑う山猫の高らかな声で語られるべきなのか、もしも演劇人なら、頭を抱えてしまうであろう極めて困難な課題を、歌という形で易々と越えることができたのは、白石准がまさに音楽家であるからに他なりません。抽象と具象が、歌という手法の中でどう処理され融合されているのか、是非皆さんご自身の耳で確かめてください。
演奏時間:	30分



【お問合せ】・・・ 株式会社 M.A.P. 〒201-0004 東京都狛江市岩戸北4-10-7-2F  
 TEL:03-3489-2246 FAX:03-3489-2279  
 e-mail:[yamaneko\\_ensemble@lince.jp](mailto:yamaneko_ensemble@lince.jp) 担当:宇夫方(ウヅカ)・鎌田